

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に、地域密着型サービス理念に沿って、出勤者全員で唱和し日々努力、実践につなげている。	ホームの理念は、見えやすい所に掲示している。毎年目標を年度初めに、職員と一緒に考え、課題としても取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の小学生の訪問や、地域のボランティアの方々との交流、散歩時の近隣の方との挨拶を積極的に行っている。自治会に加入し参加できる行事には参加している。	自治会に加入しており、地域の清掃活動などに参加し、交流を深めている。小・中・高校とも定期的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生、中学生が仕事を理解される為に、協力し受け入れている。小学生の訪問あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、その回毎に、テーマを考え、意見交換をし、利用者のサービス向上に努力している。	2か月に1度行っている運営推進会議では、利用者、家族、区の担当者、民生委員等が参加している。サービスの向上を図れるように、話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して市の情報、助言を頂いている。また、新しく取り入れるケアサービスの不明な点は、市と相談しながら協力関係を築いている。	介護保険課とも密な連絡が取れている。また、講習の話なども担当者から上がることもあり、双方の協力体勢が出来上がっていることが伺える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、毎週1回職員間で拘束解除に向けてカンファレンスを行い実践している。	職員には、身体拘束禁止について考え方を伝え、具体的に行動の中で理解出来るようにしている。また、身体だけではなく心の拘束もしてはいけないと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常時カンファレンスを行い、研修等にも参加し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性があれば、関係者と話し合い活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族に分かりやすく説明し、疑問等の質問に対して丁寧に説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、利用者・家族の意見や要望等話し合い記録は市へ提出、家族・外部の方が見られる様、面会簿と一緒に置いている。また、意見箱を設置している。	意見箱は入り口に設置したり、家族の来所時には意見等を必ず言えるような環境を作っている。また、年に1回アンケートを行うなどして、家族の意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見・提案など意見交換を行っている。	個別面談は随時行い、職員の意見や提案を出しやすい環境を作っている。また、月に1度の全体会議もあり、職員の意見を反映できる場を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の状況を把握し、働きやすい職場環境、条件を考慮しながら整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議を行っており職員の仕事に対する向上心を促し、ホーム内での勉強会も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流の機会をもっとつくりたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者との会話の中で不安や困っている事等に耳を傾けながら、安心して楽しく過ごしていただく為、努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、施設内を十分見学していただき、家族からの質問にも納得していただくまで説明、安心していただくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族に直接面談し生活状況を見極め、その本人に合ったケアプランをたて、サービスに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を職員の声かけにより、行っていただき、互いに協力し合い生活を共に過ごすような支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の特変時、家族に連絡を取り、確認や協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などの面会があり、家族との外出についても制限はなく希望にそってできるように努めている。	近隣のスーパーなどに職員と買い物に行くなど、馴染みの場との関係継続の支援に努めている。個別でも対応が出来る様に工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんが、楽しめるように、会話作りに努めている。言葉でのトラブル等職員が間に入り誤解の無い様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までどおり、相談等に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをしっかりと、その人らしさを考え、何を望んでいるのかを把握して働きかけている。	アセスメントを通して、その人らしさを把握し、意向に添った支援を行えるよう、努めている。また、職員は利用者本人の見守り、傾聴を心掛け、利用者の持っている力を引き出せる様努力している。	更に思いや意向を把握できるように、利用者や家族にアンケートを実施し、意見等を出しやすい環境を築くことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実調や、入居後の家族の面会や利用者本人とのコミュニケーションの中で生活歴を知り、記録に残し全職員把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックで健康状態を把握しコミュニケーション・訴えから利用者の有する力を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、穏やかに心地よく暮らす為、意見・アイデアを本人・家族・スタッフと話し合い作成している。	毎日のサービス提供状況をモニタリング時に参考にし、個別に検討している。また、利用者・家族の意見も取り入れながら、現状に即した介護支援計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの気づきなどを、個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や要望から、柔軟なサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険相談員の訪問・ボランティアや近くの小学校との交流、他消防署の協力で避難訓練等を行い安全な暮らしと楽しみのある生活を送って頂ける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療があり、変化のある時は受診前にきめ細かく相談を行っている。利用者・家族の希望により、月1回の訪問診療以外も受診を行っている。	利用者がそれぞれに、専門医やかかりつけ医療機関で医療が受けられる様に、希望を尊重した支援をしている。受診方法や結果の報告、共有などについても希望に応じて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師であるため、利用者の健康状態を把握しており、夜間の特変時の対応も即応体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連絡を取り合い状態の把握や病院説明の際には家族と同伴し病院との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と終末期について話し合い、協力病院の往診時、家族とホーム職員一緒に説明を受け、今後の方針について共有し取り組んでいる。	入居時に施設での方針・支援内容を具体的に説明している。重度化した場合には、家族・主治医・施設の三者で話し合い、方針の共有を図り、可能な限り対応することを全員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での勉強会で応急手当・初期対応について学び、看護師より定期的に学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年2回の避難・防災訓練を行っている。地域の協力が得られるように努力したい。	防災マニュアルを整備すると共に、消防署の指導のもと年2回、昼間と夜間想定での避難訓練を実施している。その際水消火器を使った、消化訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者に合わせた言葉掛けを行っている。	「さん」付けでの声掛けを基本とし、反応により家族に相談し、「ちゃん」付けで呼ぶ利用者もいるが、上目目線での呼びかけはしない。利用者一人ひとりを大切にされた対応や言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を聞き、希望にそった支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブ・買物など希望のある時は、希望に添って支援している。入浴など、一人一人のペースを大切に希望を優先して行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服のコーディネート等、利用者の意向も聞き、身だしなみに心がけている。2ヶ月毎に理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を確認し食事を楽しんでいた。食事の片付けをしていただいている。利用者の意見も取り入れ外食も行っている。	毎日の食事の手伝いは、配膳や片づけが主であるが、日を決め昼食を利用者と一緒にラーメン・サンドウィッチ・ホットケーキ等作っている。御弁当と一緒に作り花見に行ったり、外食にも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況を把握し、食事・水分量が必要量取れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアが自立している利用者には声かけをし介助が必要な利用者(義歯)は、洗浄など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個別に把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。	薬の調整で失禁が改善できたり、オムツから布パンに変わったり、パターン表を利用した声掛けや、利用者の態度・動きを見ての誘導により改善に向かっている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせ、水分・運動・服薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を活用し、入浴の希望や時間など確認し、一人ひとりの意思を尊重し入浴を楽しんでいただいている。	基本は、週3日は入浴していただく様支援している。午前・午後決めずに、利用者の気持ちに合わせてゆっくりと入浴を楽しむことができるよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣にそい状況に応じた安眠・休息が取れるように支援している。夜間帯は定期的に巡視を行い見守りを強化し、安心して寝ていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬についてまとめた(目的・副作用・用法・用量)ファイルを使用し、常時確認できるようにしている。症状の変化を見逃さないよう十分に注意を払っている。薬の勉強会を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から入居の際の情報や本人からの情報などで生活歴が解り、コミュニケーションの中で役割や楽しみなど理解し実行できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や気候など配慮し、本人の希望を把握し、散歩、買物、ドライブなどに出かけている。家族の面会時ホーム周辺の散歩に出かけるなど協力をお願いしている。	利用者の身体状況や意思を尊重した外出支援に努めている。散歩は天候により毎日の日課として、20～30分の散歩を実施している。その際、地域住民との会話も弾むようになってきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣帳により収支を確認し、買物等必要な時はいつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により自ら電話し話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間、日中共にダウンライトが常時点灯できるようにになっている。また、各ユニットには天窓が配置してあり、光を多く取り込める造りになっている。季節の花を庭より採取し、季節感を取り入れている。	広い食堂・居間は自然の光が溢れ、穏やかにくつろげる空間となっている。居室のそばに畳敷きのスペースがあり、気のあった同士で一緒に過ごせる様に配慮している。居間の前には自由に出れるベランダがあり、庭を眺めながら季節を感じられる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・畳コーナーでは、気のあったほうが、談話されたりしている。一人になりたい時は、居室にて過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・仏壇・写真などを部屋に置き、心のよりどころとし、安心した生活をしていただいている。	愛着のある品、思い出の品の持ち込みを推奨している。居室には、馴染みのダンス・椅子・照明等、家具類が置かれ、写真・利用者の作品等の小物類が飾られるなど、家庭的な雰囲気を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を貼っているが、分からない方には大きくドアに名前を貼っている。トイレには、矢印をし分かるようにしている。		